

1986年2月号

1986年2月5日発行（毎月1回5日発行）

No.111

# あふあて

発行人/ 発行所/あふあて出版部  
定価/200円 振替口座/ あふあての会 電話/

## 冬の仮面

夜の風呂場のすきま風はソクッと寒い  
腕まくり ゴム手袋をはめながら  
さあ出陣だ 家事引受人の登場だ  
ぼやけた顔が別人のように目ざめる  
カゼ気味の子供のごきげんとりながら  
一日中暖かく遊び呆けて夜になり  
そろつと寝かせた子供のそばに  
山のような洗濯物だ

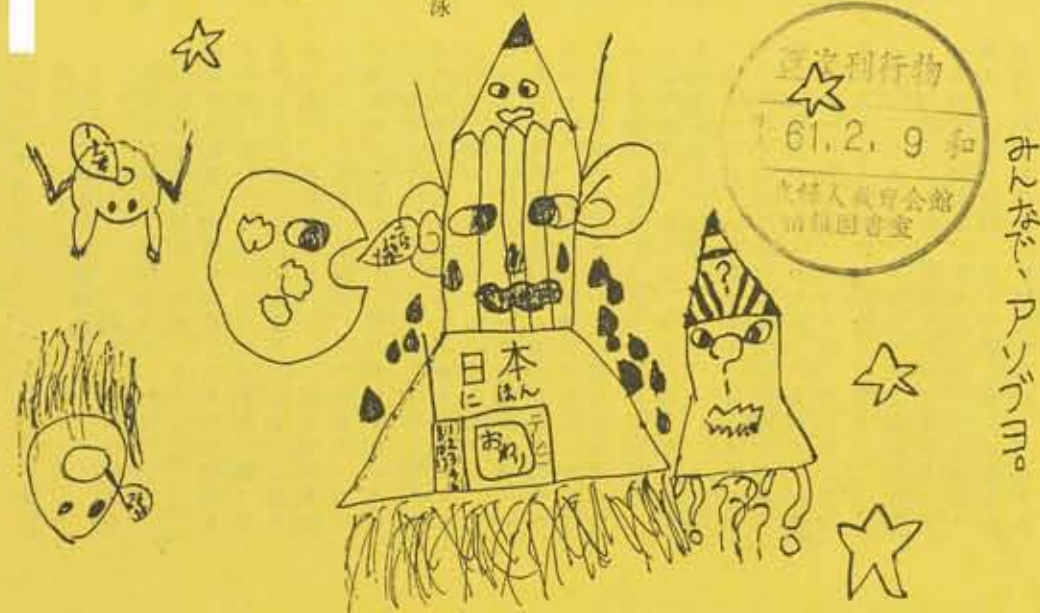
おしめ洗いにとりくむ前の  
覚悟を決めるこの瞬間  
男のネクタイキリリのような  
女のヤル気の魅力が見えるかなあ

洗濯機のフル回転と私の両手のフル回転  
すすぎの水のきれいな中で  
ワイシャツとおしめとブラジャーの混浴水泳  
ゴム手袋もきれいになったね

不浄感? いいえ不潔じゃありません!  
この手になじんだ冬の助手は何でもこなす  
じゃがいもをむく、人参を洗う、肉を切る  
塩コショウまで器用にこなす

ついでにあれもおまけにこれも  
冬の仮面のスーパーウーマンの大活躍  
短時間で一日分の仕事をやり終え  
仮面を脱げばぐつたりと眠くなる夜ふけ

詩 沢田  
イラスト 青木





## 夫・男 との 関係



へ男を語れば自分の足元も見えてくる。私の家庭、告白、分析、決意表明いろんな形になりました。子育て中心に毎日が過ぎてしまつて、それぞれ稼ぎ手とか家事の役割だけの関係に終わりがち。

身近にいる男と私の関係についてもう一度みなおしてみませんか。

### ケンカにならない夫・妻

小平市

星占いも血液型も、コンビニエータの分析もエトセトラすべて相性よしと結婚して以来、なるほどなるほどと納得しながらは二年。夫の帰りが遅くて私がカリカリ迎えても、「ウン、ウマイ」と夕食に夫の箸が踊れば、「ドンナモノダ」と私の機嫌も直る寸法。ましてカタコトの娘が「パパ、パパ」とまわりつければ、話す暇もない。

チクチク私の皮肉や、モッタイブタ夫の演説はあつても、言いあひのケンカになつた事がない。自分の非が予めわかっているからだし、私たちが割と晩婚で、「今さらいい大人がみつともない」という感覚をお互いに充分備えているせいかもしれない。

互いに「居心地のよい家庭の維持のため」にだんだん保守的な現実肯定の考え方をする傾向があるのではないかと気になる。

お互いに二十代にはトンガッテ、ツツパッ

っている。

### ダンナも一緒にお産、そして子育て

府中市

昨年十二月、二人目の女の子を出産した。産んだのは近くの助産院。ラマーズ法の講習もしているところだが、私は家族が立ち合えるというところでそこを選んだ。「お産サイドブック」作りに刺激され、もう一人、それもダンナと一緒に産みたいと思いつてから一年半後のことである。

今回の出産のねらいは、単に夫の立ち合いだけではなく、夫婦でお産を共有したいということだった。六年前、長女を大学病院で出産した時には「お産は女の仕事」と思っていたから、私は一人で分娩室でいきみ、ダンナはわが子が誕生しようとしていることさえ知らずに家で寝ていた。その後の子育ても私や母や義母や、女中心に行なわれ、ダンナはカヤの外。その結果、私とダンナの間には子育てや生活や生き方や、いろいろな点にズレがズレが生じてしまった。そのズレを修正するのに何と多くの時間とエネルギーを費やしたのか。だから今回は、どうしても二人一緒にお産に立ち向かい、たかたかたの（ち）とオーバーかな？。

どうせやるなら親の手も借りず、できるだけ自分たちのペースで子育てをしよう、そう決めたからダンナは大忙し。妊娠中・産後を通して、上の子の世話や幼稚園の用事から炊事・買物、そして近所付き合ひまで、いっさいが彼の仕事となった。そして肝腎の出産の時

には、うるさいお産婆さんのアシスタント兼



テ、いろいろ闘ったはずのあの気負いは、一体どこに行ってしまったのだろうか。

私が出産と同時に職を辞して以来一年。夫と私は、今や古典的な男女の分業形態で日々を送っている。家庭の事は全部私におまかせ。私は十年勤めた失業保険を受け取る事なく、夫に高い給料でヤトワレタ感じ。

最近我が家のフロアのちよつとした修理が、一万円以上かかった事に、家計にひびくと私はブツブツ言い、夫は「今どき、出張費だけでもそれ位かかる、安いものだ」と言い、サービス業、技術者に理解があるから、私の家事育児料は、元の私のサラリー位、いや、今の夫のサラリー全部いたでもいい位だ。

私はそれで夫と子供を養っているような気分になる事がある。何か変だなあ。

子供にケガでもさせると、私の業務上過失だと思ふと緊張もするが、育児の本に書いてある「冒険心や創造力に欠く子」になつても親業失格なわけで、このサービス業は、なかなかむずかしく、面白くもある。

ならば、夫が独身時代と変わりなく「飲酒、趣味、勉強」を続けている事をうらやましがする事なく、私のより文化的な事業としての育児に励もうではないか、というのがガタメエである。

実際の所、私は自分自身のホンネが見えづらくなっている。「文句ユウコ」「ワガママ娘」の座は、とうに娘が奪ってしまった。もの言えぬ子供の要求を代弁して言うのが、私の役らしい。

どうやら夫との会話も、娘の口を借りて言う形が多くなりそうであり、当分ケンカらしい

いケンカになりそうもない。

### つまづきかけた新婚生活

調布市

大学を卒業後、技術を身につけようと思い税理士事務所就職したが、主人（当時彼は彼）が長野へ転勤。結婚を決定してその事務所をやめた。長野でも同じような事務所勤務に就いたが彼の世話があまりに大変で仕事に耐えられなかった。家に帰るとハサミの置き場所を決めることさえ私の仕事で、その他彼のズボンのほろびを直したり、胃の調子が悪い時はどの病院に行ったらいいか捜したり、昼間会社で何を食べたか気づかないながら夕食をつくったり、肩がこればマッサージしたり。

そればかりではない。私の仕事がいかに大変でなくとも彼はそれは私の努力が足りないからだと。私はその時彼だけを追いかけ、長野まで来た自分の愚かさに初めて気付いた。たとえ離婚しても仕方がないという決意のもとに私は東京へ戻った。そして彼と話し合い、結局彼も東京へ転勤した。

幸い今は何とか順調である。子どももできた。私にとつて三回目の職場を妊娠で辞める時、自身のOLに「あなたたつて女の甘えが強い人ね」と言われ、カッとなつて「私の苦勞も知らないくせによけいなこと言わないで」と言ってしまった。もしかすると私は彼に甘え、周囲の人々にも甘えてわがままを言っているだけではないだろうか。でも家事・育児・仕事・勉強・彼との話し合いに追われる今、仕事と育児だけは身を粉にしてもやろう、満足のいくところまでやってみようと思

### けんかしながら長続き

杉並区

一歳二カ月の女兒のいる専業主婦です。夫とは同じ年で、職場結婚ですが、私の方は再婚です。複雑な家庭で育ち、過去に辛酸をなめたせい、夫にはとても感謝して一緒に

なりました。

それでもけんかしはしょつちゅうで、深く憎しみ合っているような日もあります。二人とも言いたいことは全て言いますが、別れようなどとは決して言わないのです。子供の為ではなく、別れたくないから、つまり別なところでは尊敬もしているし、理解しようとして

けんかには、育児に協力的でないことから、私自身の時間がもてないことへのいらいらなど、また夫が自由に社会で働いているなあと

思う日など、ほんとうによくします。

結婚は男にとつてこそ安楽の場所、女にとつては翼をとられ、出産と育児と家事、この終わりのないことを背負い続ける所か、などと、暗い気持ちになることが常です。

感謝し、信頼し、尊敬しつつ、いい関係でいたいと思ひながら、我が身かわいさは、どうしようもないことだと、よく思ひます。

夫の言いたいこと、妻の言いたいこと、それをがまんしないでやっぱり全部言い合う。恋愛では舞台の上に立つていられるが、結婚は裏方に徹することでしょうか。そのことをよく承知して結婚すべきだし、どこかで深く尊敬していられること、そんなことが、私にとつての、いい関係、というより、長続きする関係ではないかと思ひます。



現在、専業主婦である私はこれから先、やはり髪をふりみだしても働く（経済的自立に近づくために）べきか、なにも私まで産業戦士の片棒を担いでいまの国や企業に貢献するのもしやくにさわるし、（子供がいて、産業戦士の夫をかかえての共働きはつらそうだしね）働いていないからこそ、あり余る？ パワーでより人間らしく住みよい社会をつくり、守ってゆくためにガンバロウか決めかねているところです。

ここで一番大切なのは、夫と私の生き方・価値観がどこまで一致しているかをよく確認することだと思っています。いまのところ、私が「あんふあんて」していても彼に大きな実害が及んでいないので、まあ健全な娯楽だとぐらいいいしか私の行動を見ていないかもしれないけれども、「——反対」なんていう意見を公に述べたことによつて彼の出世や仕事の防げになったとしても、私の心情を認めていまままでいられるかだと思っています。

「家庭生活における個人の尊厳と両性の平等」（夫婦・家族といえども人格は別で主義・主張は何人も干渉することができない）とは憲法24条にも唱われているけれども、どうもこの精神がいまいち浸透していないのが現状のようです。御多分にもれず、私も彼がそう思っているかどうか不安です。

私は自分のことは自分で決めて、自分の思うように生きて行きたいと思っています。だからそれを防げようとするものには、はつきり反対の声を挙げていかなければと思います。

しかし、役割分業の夫婦関係の中では夫婦は一心同体みたいな所があつて、個人の良心を認め合えないとき経済的自立の欠落は死活問題です。

これから私はまちがっても食べるために良心を売り渡さないための覚悟を持ちながら、お互いに認め合いつつ、暮らして行けるような関係をつくってゆかなければいけないと痛感しています。

## 夫と張り合う

市川市

私たち夫婦は次のような会話を何度くり返してきたことだろう。

## ①女と職業について

私「男にとつても女にとつても、職業をもつという事は人間として当然の権利だと思ふ」  
夫「男に互に働いている女は、すでに女である事を放棄しているんだ。今の日本の社会のしくみは、仕事と家庭の両立なんか許さないからね」

## ②子供について

私「子供がいなかったら、もつともつと仕事に打ち込めるのに」  
夫「そんなことは不可能だ。子供がいるために全うできない仕事ならやめるべきだね」

## ③私が仕事をやめて

私「今、家事や育児に明け暮れて、私が耐えられないのは、あなたがずいぶん協力的だから。そうでなかったら、とくに破たんね」  
夫「それが母親のせりふかね」  
こうしてみると、私の側では職業人から子供持ち専業主婦へ、という自分の立ち場の変化

が、そのまま夫に対する気持の変化として表

われてしまっているような気がする。

自分の職業生活を守るために、常に緊張して夫と向き合っていた日々は、はるかに遠い。自由な時間が常に手にはいると思うと、夫に對して何と寛大になることだろう。ただし、家庭におさまりにきつてしまったうしろめたさが、その背景にあるのかもしれない。

しかし、夫の側ではどうなのだろうか。結婚した男女には当然役割分担があるべきだ、という意見を日頃公言しているながら、実は生活者としてしっかりと自立している男なのだ。私が仕事をしていた頃は、家事も育児も夫の分担量の方が圧倒的に多かった。現在でも、家事・育児のかなりの部分を夫は文句も言わず引き受けている。

私「どうしてそんなにいい夫ぶりなの。日頃言っていることと違うじゃない」  
夫「おれは環境にすぐ順応しやすいんだ。くせになつちやつたんだね」

多分、近い将来私は再就職するだろう。そうすれば、また神経をすりへらし夫と張り合う生活がもどってくる。夫の方は、それを見越した上で、淡々と「自分の役割」を果たしているにすぎないのかもしれない。こんな私と夫との関係を、他人は女性上位と言うのだろうか。ちよつと違うような気がするのだけれど。

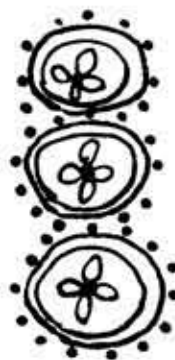


## 娘と三角関係

杉並区

わずか二年の間に、女と妻と母と三拍子そろったすぐれものになつてしまつていた。私個人は一人なのでは。果たしてどのように使われようか。女の比率より妻と母の比率がぐーんと増えて、彼はとても不満らしい。自分に対しては、女と妻と半分ずつ演じてほしいという理想像と現実（私）のギャップに苦しんでいるみたい。

育児真つただ中。色っぽくつやつぱく女やっている暇はないと、おむつ片手に肝っ玉かあさんで頑張っている毎日。ときどきのストレスを、真赤なマニキュアにしみ込ませて「わえーどーお」とお手々ふりふり流し目。「なんだそれ」の一言でガッカリ。へもうメッキは通用しないのか。彼との関係は始まつたばかり。まだまだお互い空気なんてとんでもないはなし。娘をはさんでの三角関係一騎打ち。この冬とうとうダブルベッドは娘に占領され彼は一人さびしくせんべいぶとんのあげおろし。それをよそ目にボコボコあつたかく安堵感といとおしきは幸せ一杯の感あり。ダンナ様より娘とわんわんのほうがうれしく思うのはやつぱり女より母を選びぬいてしまったのかな？



## 我が子も男

中野区

出産して七カ月が経過。あんふあんてに出会つて半年。不安とわからない事だらけの出産に続いて、試行錯誤のメチャクチャ育児。そして、夫への失望。

彼に似た子が欲しいと、ほんのこの前まで思っていたなんて、まるで嘘の様だ。でも、分娩室で生まれたばかりの我が子を見た時には、「あつ、彼に似てかわいい」と素直に喜んだものだ。それも束の間。出産後、二、三日して出張から帰った夫が私の入院中の病室に現われて言った言葉が「安産だったんだろ。ガーン!!」何が安産なものか。安産なんてこの世にあつたらお目にかけたいし、そんな言葉を産後の妻に向かつてはくなんて。その言葉は私を傷つけ、以来、彼とは食い違いばかりの毎日。男に何がわかる。傲慢にも、私は、生命の大切さがわかるのは女以外にはないのだから思つてしまう。以後、これは反省させられた。この世から核を追放し自然を守る真の力となりうるのは、女性をおいてはなし。私の考えは止まる所を知らず、どんどん飛躍して行く。夫への失望は、やがて男一般への不信感となり、それが増せば増す程、女性とはこんなにも愛すべき存在だったのかと思えてくるのだ。子供連れの女達、子育てを終えた女達、何事もなかった様な顔をした彼女達の秘めたる力、私はそれを強く感じると同時に、彼女達をとていとおしく思つてしまう。もし、女性ばかり、老いた女がいて、子連れの女がいて、乳を飲ませている女がいる、女ばかりのそんな家があつたら

すぐにでも私はそこに住みたい。男とは会いたい時に会えばいい。会いたい人が会えばいい。男社会の家庭とは、男にばかり都合良く、それをささえている一人は女。仕事を持つ女は、家事に育児にと、奔走させられる。それをだまつてこのまま続ける事は、確かに争いのない平和な家庭を築いているかに見えるだろう。しかし、何もかわりはない。女にとつてそれは、タコが自分の足を食うのに似ている。

女にとつても、居心地の良い家庭とは。それをめざせばめざす程、私は悪妻に徹する他なくなつて来るのだ。

幸か不幸か、我が子も男。この子は絶対にフェミニストに、そして、自分のやりたい事、仕事、家事、育児等をトータルな生活として生きていける人間に育てよう。

気の遠くなる程長い歴史の一点に立つて、あせらず自分自身を生きてみよう。そう自分に言い聞かせながら、育夫と育児にはげんでいる今頃だ。





## もらって迷惑ノ母性手帳

母子保健ってなに？

「母子保健とは、母性及び小児の心身の健康の保守・増進をはかること。健康の障害の因子を除去、予防すること、及びそのための活動をいう」。「母性」とは現に子どもを産み育てるべき存在、及び過去においてその役目を果たしたものをいう（母子保健用語集、及びWHO母性保健委員会により以上のように定義されている。）

母子保健法は、母親や乳幼児に対する保健指導、健康診断、医療を充実するため、昭和四十年に制定されました。

それから約二十年経った今、女性のライフスタイルに応じた健康管理の一環として、妊娠前の母性の健康管理を推進するために、次の三つの点の変更が検討されています。

- (1) 母性手帳、母性健康診査を設ける。
- (2) 新生児・先天性異常の早期発見のためのモニタリング・システム（監視体制）をつくる。
- (3) 母子保健を県（保健所）から市町村に移す。

この中で私たちに最も身近な問題である、「母性手帳」について考えてみたいと思います。

「母性手帳」が「母性手帳」に変わるってどういうこと？

今まで私たちが妊娠中に渡されていた母子手帳は、妊娠中の母体の記録が書かれ出生と同時に子どもの記録へと移っているわけですが、この「母性手帳」をやめて成人式などで（女

性本人が結婚または子どもを産む予定があるなしにかかわらず）一律に配布される「母性手帳」と、さらに妊娠時に渡される赤ちゃんの手帳とに変えようというものです。

「母性手帳」が「母性手帳」へと名前は少し変わりますが、その内容は大きく変わってきます。成人女性が病院へ行く時には、「独身主義であったとしても」必ず「母性手帳」が必要となり、一般健診、特殊健診（乳ガン・子宮ガン等）医学的事項（薬剤投与歴、X線照射等）が記載される他、妊娠前からの喫煙、飲酒等も将来母性となるものへの注意事項として付け加えられるそうです。

例えば、女性が何回妊娠、出産し（中絶も）どんな病気をしたかということも一目で（コンピュータで）わかる仕組みとなり、もしも健康でない子が生まれる可能性がある場合には医師（厚生省・国）から産まないよう指示されかねません。反対に健康な子を産んだ女性が、三人目四人目を産むかどうか迷った時に、中絶させないチェック（優性保護法）機構ともなり得るわけです。

それになぜ女性のみで男性には同じような手帳がいらぬのでしょうか。戦前には体力検査結果を記入する「体力手帳」があり、徴兵制の基本台帳となりました。今、成人男性にも手帳を、と言え拒否反応が強いと判断したためでしょうか。

しかし私たちの子どもは、既に母子手帳で生後一カ月から三歳児まで何度も平均値に育っているかを確認され、就学時には健診が健常児と障害児のふり分けの役割を果たしている

## 「中絶——北と南の女たち」を見て

小平市

避妊を禁止する国では、中絶が発覚すると手術中ですら捕えられる。ヤミ中絶で女たちの命は危険にさらされている。別の国では避妊が奨励され避妊手術を受けると報酬が与えられる。

中絶が善か悪か。

経験者である私には、「中絶の自由を」と、堂々と公言するには自責の念がぬぐい去れずにいた。二歳になる娘をみるにつけ、あのときたとえ学生でも貧しくても産んでいれば、そう思わずにいられなかった。

雑誌などでは、超音波で中絶を受ける胎児を見せつけ、生れてこられなかった命がどれほど悲惨であるか、道徳的な立場で訴え、さかんに水子の供養をよびかける記事があふれ中絶したという罪悪感が常にまとわりついて離れずにいた私だった。

けれどこの映画を観て、中絶が善か悪か！実はそんなレベルで世界は動いていないのだと知らされた。

その国が人口過密であれば国は避妊を奨励し、人材が欲しいければ中絶を禁止する。日本では今も優生保護法と堕胎罪というのがあり、法の上では中絶は禁止されている。ただ経済的に困難があれば許されると一言ついているので、かろうじて罪にならないでいる。

女は今も「産む道具」としてしか扱われていない。「産む性」だけであれば動物と同じ。「産まない性」があるということが人間なのだ、講演での丸本女史のことばが心に残る。禁止すれば中絶が無くなるだろうか。完全

な避妊法がないというのに。

中絶を経験したいという女がいるのだろうか。中絶をして傷つかない女がいるのだろうか。

映画では相手の男性はひとりとして出てこない。妊娠は女だけではできないのに。

中絶だけではない。妊娠、出産を含む性の問題が、どんなに女性自身の立場からかけはなれたものにされてしまっているか。

今回の「母子保健法改正」は、一見、女性の性の問題の不安を取り除くサービスを国がタダでやってくれそうないメージだが、国の都合で産むべきだ、中絶すべきだと判定される基準となるのは、個人の立場はどうなってしまうのだろうか。国の意図する所を見抜いていきたいと思う。

性の問題は、まず女が、そして夫婦が、恋人同志が、親子が、真剣に語りあえること、そこから出発しなくては行けないと思った。多くの人にそんなことに気付いてもらいために、この映画はとっても意義がある。私の地元の小平でもぜひ上映したいな。

## 上映会のお知らせ

「中絶——北と南の女たち」

2月9日(日) 1時半、3時半、6時半  
中野区消費者センター大会議室（中野駅北口徒歩8分。中野区新井1の9の1）  
中野・女のクリニックをつくらう会主催  
連絡先

上映協力費はカンパ。託児なし子連れ可。

ことは御存知の通りです。

今の子どもたちには、男も女もなく健康か否かのデーターはもうそろっており徴兵制の基本台帳はあらためて作らなくてもいいわけです。

個人の健康記録が一冊の手帳に収められるとしても、それはあくまでも自分のためのメモで、医者に説明する時の参考となれば充分ではないでしょうか。個人記録が役所のコンピュータにデータ処理されプライバシーも守れなくなるうえに、結婚するしない、産む産まないなどの個人の生き方にまでも口を出されるのは困ります。女性はいい子を産みよい家庭を作るために生きていくのでは、ないのですから。

このような「母子保健法改正」が厚生省では62年からの実施をめぐり「母性手帳」配布対象を、成人式、高校卒業時、あるいは16歳など何歳にするかについて議論するまでに進められています。

本当の母子保健サービスとはまず農業・添加物他の汚染をなくし、どのような子どもも安心して産み育てられる環境づくりが一番ではないでしょうか。

私たちの女性の生き方に大きくかわってくるこの「母子保健法改正」について各地で勉強会や抗議の声があがっています。

新聞などの情報に注意しながらみんなで考えて行きたいと思います。

（産む産まないを考える会 大山）



## へ入会して

半年たちました

●あんふぁんてに入会したことで、毎日子どもと二人きりの欲求不満のかたまりみたいな生活から脱皮でき、子ども共々、よかったと思う。現在、共同保育などの活動をしているけれど、仕事を中途半端に終わらせてしまったことが心のこりで、再び、できれば近いうちにまた、保母の仕事をやりたいと思っている。

（浜松市）

●結婚するまでは損害保険会社のOL。結婚してから妊娠三カ月まで商社会社でアルバイトをしていました。現在0歳児がいるせいか、なかなか思ったとおりにことが運ばず、もったいないことをしてきたけれど、最近やっと、精神的、肉体的にゆとりが出てきたので、グループでの集りに、子連れで参加してみたいと思います。

（大田区）

●大学院の学生をやリながら、つれあいてフリーで調査、原稿書きの仕事をやっています。（分野は海外協力とか国際交流、市民活動）「ちびっ」というミニコミやつてます。のぞいてください。いっしょにつくってください。子連れでもできます。子どもがいても気軽に生き生きと海外協力にかかわれる情報をのせてます。—そうそう、買ってくださいね。

（北区）



府中市

私の体験

未熟な母親 昭和46年12月横浜にて

生だった私は八歳年上の彼と深い交際をして  
いた。母はそのことに寛容であつた。ところが  
母は私の妊娠を知ると即座に中絶を勧めた。  
彼は結婚を約束してくれていたが、未婚で  
も子供を生み一人でも育てたいと思つていた。  
それなのになぜ五カ月の中絶を受けたかとい  
うと、妊娠初期一週間ほどの鎮痛剤の服用の  
ためである。

入院の日、私は彼に抱かれたそのまゝの身

Ⅱ 早すぎた出発 昭和48年12月横浜にて

正出血があつた以外は順調だつた。出産は自宅近くの診療所だ。看護婦に朝食を取つたと言つてカンカンになつて、私はなにがなんだかさつぱりわからず恐ろしかった。でも医師は年配の方で安心してゐた。病院には行つたもののまだ産まれそうもないので家に戻つた。結局微弱陣痛で三日目に破水し点滴を投与され吸引分娩で出産した。その間奥様がたびたび診察してくださつた。私の意識は朦朧うとしていたが、徴かに産声は聞こえた。計五十二時間だつた。その疲れて一週間完全に子供と離れて休養した。その間看護婦は食事を運ぶだけ。トイレもお産当日から一人で行つた。退院するとき看護婦が自分の子供の服をくれた。

診療所の良さはこうした親近感であるし、ゆつくり一週間休養を取れたことであった。どうせお金を払うなら、気分よく安心して産みたい。何も心配のない人は、やっぱりこんな雰囲気ですつくり体を回復させるのが良いのではないだろうか。今はこうした病院で心おきなく、ストレスのないお産を望みたいと思う。大病院が必ずしも安全とは言えない!!

愛媛県

社会人二年目の臨時教師ですが、今私は教師の「本音と建て前」を実感しています。こ

これはどの人にも言えると思いますが、学生時代には平気で自信をもつて発言していたことなのに今の立場で同様に発言すればブレッツシャーがかかってくるし、このことが「本音と建て前」をつくっていくのでしょうか。管理というのは教師を押さえ大人が大人を押さえたいものかもしれない。私の思う「子どもにとつて一番いいこと」とだいたい先生の思っているそれとはちがうのかもしれないと感じるし、人間すべて共通しあえないにしても理想と現実のギャップは大きい／＼と思うのです。私は人間としても女としても未熟ですが、本当の教師でもなければ母でもない身ですが、前向きに生きていかなきゃなあ」と感じるこの頃です。

新潟市

情報紙にはとても力づけられて来ました。六年間に三人の子育てをする様になり、生協にもかかわることになり、単に自然食にとどまらず、公害のこと、住民運動のこと、すたれそうな農家のことへ絶対すたれさせてはいけない」等。視点が広がった気がします。そろそろ育児のみにこだわらず、「一人の女」として、社会へのかかわり方を別の方向から考えてみようかしらと考えています。

山口縣

夫の失業の聲は興味深かった。先日、職安に行つて来たけど条件の悪いものばかり(男・営業)。皆、努力と忍耐の社会人なのでしょ。うネ。不良品を持ち紳士服屋へ、歩き歩いて行つたけど、押しのなさにグツタリ、ドシンと落ちこんで帰つて来たところだ。またはいあがらなキャン。

藤沢市

「いったん妊娠すると女性は子どもが小学校に入学する頃まで閉鎖的な生活を余儀なくされる」とありましたが、まさにその通り実感しております。夫が家事・育児を分担することはこれからの女性の生き方に大いにかかわってくるキーポイントだと思います。伊丹十三氏は「長男が生まれたばかりの頃、同じ部屋のベビーベッドで寝ていたが夜中にワァーと泣き出した。ミルクもおしめもそこに置いてあるのに妻を起こしている自分に変わってしまった。自分の子どもでもあるのに」と話しています。彼はその時から家事・育児に参加しているそうですが、世の夫族父親族はなぜそこに気がつかないのでしょうか。妻の夫に対する言い分を新聞の投稿欄へぶつけることで処理するのではなく、あきらめずに機嫌のいい時に少しずつ手伝ってもらいうまくおだてて自然といつの間にか夫の分担にしてしまふとか；そして同じ思いの女性同士手をつないで助け合っていくことが大事だと思いま

## 未来を拓く？

朝霞市

先日、上野千鶴子さんという社会学者がさる国際シンポジウムで発言した。自立していない男は、もはや粗大ゴミの域をこえ、すでに産業廃棄物というにふさわしい。彼等の意思決定が社会的に力をもつことはとても危険なこと。こんな内容だった。確か快傑ハウス・ハズバンドの中に男・産業廃棄物という指摘が村瀬春樹さんの言い方でなされていて、上野さんはいたくこの本に共感をしめしていたような言も拝見した。

男といわず女も、特に働き始めると身の廻りの事や地域のことや要するに「生活」を人任せにして、その代価である「現金収入」に頼ってしまう。何でも金で生活を処理してゆくことに慣れ「産業廃棄物」になりそうに不安は実感済み。

朝日新聞に「男の子育てを考える会」が紹介記事として載っていた。「働くだけで事足れりとする男性像を問い直し、家事や育児に加わることで、男の生き方を考え直すのを中心テーマにしている」とあったがこの中で、「家庭にもしつかり根を張った男の新しい生き方を問うのが狙い」の部分に私はやや不審

を抱きつつ、第三回の男の寺小屋に顔を出すことになつてしまつた。

「ボク達、こんな風に生きてます」というメインの対談は終わり、手作り料理に草木染めの実演。「ギターの引き語りをやつてる頃に息子（小六）と一緒にとびこんだのだが、最後の交流の時私も一言。『小六の息子は家庭科大好きで、エプロンも作る、料理も好き。私なんか家庭科大嫌いで、学生時代を過ごしていただけど、みんなと一緒に生きてゆくことを学ばない今の学校や家庭で、どんな次の世代にゆがみが出てきている。せめてこういう場で、明るい未来の生活像を子供の世代にもつなげたいの。』」

邪子防の湿布（し）ようがのすりおろしとか）にとても興味を持つて、私にいろいろと話しかけてきた。私は、仕事、仕事で自分の子供達とすら一緒にモノを創れない今の生活を何とかしなくちゃ、としきりに考えてた。

数日後、星さんからいただいたおたよりに「朝日の記事のことですが、内容がかなり、家庭にポイントがおかれていて、ボク達の主張と少しく違っている所があります」ということ。つまり男が家事に関わることで政府の求める家庭基盤充実政策を補強する役割を担ってしまいたくない／との事。当然よ男の子育て、未来を拓く？「世界的」男の企みにご用心！！

いくら料理自慢、洗濯上手の男が増えたって、女も男も家の中ばかりに目を向けて、社会の動きにうとくなっちゃ困ります。(会社じゃないよ)

情報コーナー

☆豊中市本町Gの名称が「トヨナカキッドクラブ」に決まりました。母親同志知り合つて日が浅いので、最初から規則など決めすぎないように焦らずゆっくり進めて行こうと思つています。

☆共同保育ありんこは、九月いっぱいまで家を返し、「場」にこだわらずにやっています。という事で、月・水・金と5/6歳児を中心に青空保育として活動が続けています。

☆初めまして、私は十月からお仲間入りした六カ月の男の子を持つ主婦です。  
子供が出来てからというものの生来の引つ込み思案も手伝って、家に閉じこもりつきり。「これではいけないなあ」と思っていた矢先「あんふあんて」を知りました。しかしグループが二十三区内に集中しており、千葉の方にはまばらにしかないのがっかり。近くの皆さん、手をつなぎませんか？



☆鉄連仕事差別裁判・裁判官への要請と資金カンパの「Fe7」絵はがき販売協力をお願いいよいよ今年に地裁判決が出ます。裁判官宛に男女平等を願う声を届けてください。  
1セット 350円（絵はがき4枚+裁判官への要請はがき付）3セットで千円です。  
申し込み先 東京都新宿区荒木町23中沢ビル3F「ジョキ」内鉄連の七人と共に性による仕事差別賃金差別と闘う会

☆「草の根運動79/84」  
日本消費者連盟は、創立時から機関紙「消費者リポート」を発行してきました。一九八〇年に十年分をまとめ「草の根運動10年」を発行、このたびその後の五年分を続編として一冊にまとめました。  
価格 二万円  
申し込み 郵便振替・東京3の22957  
問い合わせ 日本消費者連盟  
☎03(7119)3922  
☎03(7111)7766

☆「オットコー座」

「オットコー座」の出張・出前いたします  
「男の子育てを考える会」  
五年前から活動の一環として、会の主張を盛り込んだオットコー座上演してきました。  
「男一度やったらやめられない」女王さまとボク「男の育児殺人事件」等々。  
全国各地どこへでも駆けつける体制です。  
問い合わせ 「オットコー座」係 星 気付

☆あなたの仕事に対する思いを話しませんか。  
「働くことを考える会より」  
私は現在、仕事を休みたくなってきたが、ありません。体が疲れているのか、気分が疲れているのかよくわかりません。しかし、仕事をやめようとは思わないのです。  
食いつちを誰かにまかせてしまうことが、どうしてもできないことが一つにはあります。今、一日が仕事を中心として回っています。そして、自分の人生を考えてみた場合も仕事のことを抜きにしては考えられません。どういう働き方をするかは、私にとって一つのテーマです。

仕事を休んでる人、持っていない人、これから働こうとしている人、あなたの場合はいかがですか？まずは、各々の状況、思いを話し合ひましょう。  
そして、働くことをとりまく、いろいろな問題を考え合ったり、情報交換をしたいと思ひます。

日時 2月16日(日) 12時/3時頃  
場所

☆「おもしろ学校の日」上映会  
日時 2月16日(日)  
場所 朝霞コミュニティセンターへ朝霞駅南口5分・市役所隣  
詳細は山崎

図書コーナー

「女と男の経済学——暮らしとエロス——」

社会評論社刊 千六百元  
日本であまり売れなくなつたあふない食品を第三世界に売りつけ、現地の人々を搾取して公害をまきちらして行く日本の企業を野放しにしておいて「〇〇を救う」なんて言つて募金することの矛盾——。  
人を差別してはいけなさと知りながら、女同志の中でさえ、性を売りものになければならぬ女をつくり出している社会を問題にしよとせざるに女を差別していることの愚かさ。それらが、誰のために、どうやってつくられてきたかが分かりやすく書かれている。多くの人の本當の敵が見えてくるみたいです。複雑な社会機構の中で管理されやすくなっている自分を立ち止まって見直すためにみんなに読んでもらいたいと思ひます。

へ目次  
序 買春春観光の実態  
1 私たちの性の感覚（強姦天国ニッポン／プレイタウンで焼死んだホステスたち／私たちの内なる性道徳）  
2 私たちの暮らしと第三世界（世界の経済のしくみ／日本の教育）  
3 私たちのつくる家庭（恋愛と結婚／家庭の経済的な役割／個人をこころざして）  
（安原）

☆「赤ちゃんひろば」始めます  
我が子がわいさに埋没したり、忙しさと不安に振り回されたりしていませんか？  
男も女も子どもも、いろんな相手に会いながらイキイキとした「私」たちになりたいのです。

日時 毎月第4土曜日 1時/3時  
場所 阿佐谷ひろば（国電阿佐谷駅そば、書店風舎うら）  
会費 毎回千円（会場・通信費他）  
対象 0歳児の親子——例外も歓迎  
内容 おしゃべりタイム、今日のメインテーマ、赤ちゃん体操（ぐずりだす頃）、情報交換、これから可をするか……  
連絡先

☆「女のスクリーン」開催のお知らせ  
映像の世界で生きた女たちの昭和史  
女性スタッフによる映像もやま話  
「銀幕を夢みて」  
お話 玉木ますみ  
日時 2月15日(土) 午後6時/8時  
場所 すべーす・えいがさい（小田急線参宮橋下車5分）  
費用 八百円（コピー付）  
主催 女の映像集団準備会  
連絡先 すべーす・えいがさい内 女の映像集団準備会

「ウエンディ・ジレンマ」

ダン・カイル著 小柴啓吾訳  
本書は、アメリカの女性たちの悩みについて書かれた本で、いかんしてウエンディ型の自分自身から脱出し、ティンカー・ベル型の女性になるか、その方法が書かれている。ウエンディ型と言うのは、夫や恋人に対し、自分自身を殺しても、母親のような気持で接する、女性たちで、その反対が、ティンカー・ベル型の女性たちである。  
彼女たちは、自分自身をしつかり確立しており、なんでもかんでも彼らに合わせるだけじゃなく、主張すべき点はしっかりと主張し、ずるずると相手に合わせることはしない。一般的にすべての女性は、心の中にこの二つの型を持ち、その人たちが自身の生き方により、どちらか一方が強調されている。  
私たち日本の女性は、昔から、ティンカー・ベルであるより、ウエンディのように、母親であること、外から帰ってきた夫たちに対し、やさしくその疲れをいやしてやれるような女性こそ理想とされてきたように思われる。しかし、そのような母親役は、多くの自己犠牲を必要とし、自我に目ざめた女たちには通用しない。相手に合わせてゆくことは社会生活の中で必要な事であるが、主張すべきことは主張する強さも必要であると思う。

本書を読み、自分自身の内なる声に耳をかたむけ、ともすれば、われわれ専業主婦が抱えているウエンディ型から脱出するための努力は、夫と対等な関係を築く上で必要な事ではないだろうか。  
（白川）



## 事務局から

☆新スタッフ募集ノ  
あんふあんで全体の方向、活動について検討するスタッフをやってみたい人、募ります。月一回のスタッフ会議に必ず出席できるヤル気のある人、一人でも多く出て来いノ。スタッフ会議は毎月の情報紙発送の日(原則として月曜日)12時前後の2時間位。場所は幾代宅(東西線、神楽坂駅より3分)にて。スタッフには交通費のみ支給されます。やりたい人は事務局まですぐ連絡をノ。

## スケジュールメモ

2月15日(出) 3月号原稿バ切り  
2月22日(出) 土曜あんふあんで  
2月26日(休) 平日あんふあんで  
3月10日(月) 3月号発送・スタッフ会議

☆3月号は西武新宿線グループ担当です。

マは「グループ作りの悩み」と「就学時健診を考える」です。グループをやっていく中で出てくる悩みや問題、解決方法、またはグループを作ろうとしたけどできなかった等。就学に関しましては、受けた、受けなかった、どちらの場合も原稿募集しますのでよろしくノ。

## スタッフから(永福町グループ)

○人一倍うるさい娘と、半人前の私とでの初めての編集参加。親子であんふあんでするって大変。カルチャースクールよりずっと多角的に勉強になり足を引っぱりながらも楽しかったです。(中山)

○サキ・マキ・ヨウコ・アキコ・ファルコン編集会議に参加して、楽しんだ一・二歳の女の子たちと子猫。原稿をひっくり返し、消しゴムをかじり、泣き、ぐずり。なんとか編集できたのもみんなのおかげ。今度は自分たちだけで編集できるかな。(新村)

○人の親になつて二年。やつとふつ切れて子どものする事がおもしろいと思えてきた。私の娘だからこの先ひとすじなわではいかないだろうけど、子どもというよりも後から来た小さい仲間のつもりでやりたいと思います。編集の拠点が国分寺、小平にもできました。(近くの人)いっしょにやりましょう。(千夏)

○あんふあんでに入会しきなりの編集参加で、私にできるだろうか不安でしたが、ペンを持つていい気持ち。全国にいる仲間のお便りなど一番に読めるって、ほんとにいいもの。迷惑かけましたがとても楽しかった。(毛利)

○一月号がお休みで時間的に余裕があると思つていたのにあつという間に入稿の日。慣れない編集作業は大変だったけど、平日あんふあんでの若いお母さんたちと仲良くなれたことは大きな収穫でした。(青木)

☆当会について詳細を知りたい場合、封書にて、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記し切手四百円分(なるべく少額切手で)を送つて下さい。宛先は表紙上段に記載。

☆入会希望の場合は、なるべく六カ月(二千四百円)以上まとめて郵便局の振替口座で払い込みを。口座番号は表紙上段に記載。なおTELもお忘れなく。

☆事務局の電話受付は原則として月・金曜の二・四時ですので御協力を。

☆会費の払い込みを忘れている方は至急払い込みをノ休会、退会も必ず連絡をください。